

2014年度 法科大学院

第1回既修者入学試験問題

1 時限

憲法(論文式)

試験時間 60 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[憲法]

つぎの文章を読んで、設問に答えなさい。

高校生であるAは、日頃から、とりわけ政治・社会問題に強い関心を有しており、勉学に励む一方で様々な社会活動に参加してきたが、第2学年に進学してまもない20XX年5月ころより、地元B県所在の原子力発電所の再稼働に反対する運動（以下「原発再稼働反対運動」という。）を行っていた兄の影響を受け、兄と共に原発再稼働反対運動に従事するようになった。Aとその兄が所属する原発再稼働反対運動グループの活動は、時に過激な行動に出ることで有名であったが、その傾向は、Aの参加以降、ますます強まっているようであった。

実行力に優れたAの兄と、高校生とは思えないほどの卓越した知性と計画力を有するAは、同グループの中でも急速に発言力を強めていったが、そうした中、Aとその兄は、同年8月、B県所在の原子力発電所付属施設への職員の立ち入りを妨害する緻密な計画を企画し、実行するに至った。

警察は、Aとその兄について、建造物侵入、凶器準備集合、暴力行為等処罰に関する法律違反および窃盗事件の首謀者としての嫌疑を抱き、その行方を追及した。

Yは、キリスト教の教職者たる牧師であったが、Aがその叔父を介して頼ってきたので、彼の魂への配慮から、Aが兄の原発再稼働反対運動グループとの接触を断ち、自らの行いと思考について、しっかりと反省する場と機会を得ることこそが緊急に必要な最優先事項であると考え、友人の牧師に事情を話し、Aとともに、そのもとを訪れ、彼を預かってもらうこととした。Yは、Aが上記の罪により警察の捜査対象となっていることを知りながら、成績優秀なAが復学し、まずは学生としての本分を全うすることこそが第一だと考え、Aを説得し続けた。Yは、こうしたことを、キリスト教における牧師の職にあるものの牧会活動、すなわち個人の人格に関わる「魂への配慮」等をとおして社会に奉仕する使命の一環として行ったのであったが、そうしたYの説得が功を奏し、事件後8日目に、Aは警察に任意に出頭した。Aはその際、Yの説得がなければ、自分は逃亡を続け、家族やいろいろな人達に心配をかけることになっていただろうと、涙ながらに警察官に語っていた。

ところが、この間、Yのもとを訪れAの所在を尋ねた警察官に対し、Yは、知らないと答えていたので、Yは刑法第103条の犯人蔵匿の罪を犯したとして略式起訴され、罰金1万円の略式命令を受けることとなってしまった。これに対してYは、自らの行為が違法でないことを主張し、正式裁判を請求した。

設 問

あなたがYの弁護士であったとして、Yの無罪判決を勝ち取るために、どのような主張を行うか、憲法上問題となる争点を明示したうえで、当該憲法問題を中心に、答えなさい。

(解答は全て解答用紙に記入すること)